



THE  
TREES OF  
JOUMON  
の



第14号

2023, 6.1

水子貝塚公園・水子貝塚資料館ニュース

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

QRコード



編集・発行：水子貝塚資料館

☎ 049-251-9686

〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

FAX 049-255-5596

## 史跡水子貝塚保存活用計画を策定しました

国指定史跡の水子貝塚を今後も適切な状態で保存管理し、さらに活用を進めるための方針を示した「史跡水子貝塚保存活用計画」を策定しました。

保存活用計画は、水子貝塚の遺跡としての価値を改めて認識し、より良好な状態で未来へ継承するための保存、整備、管理、そして周辺の環境や文化遺産も含んだ地域資源、観光資源としての活用を進めるための方向性を定めることを目的としています。

策定にあたっては、考古学をはじめとする学識経験者、学校教育関係者、市民団体代表者などで組織した富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会で計画内容を審議し、文化庁と埼玉県教育委員会の指導・助言を受けました。

計画の内容は、これまでの発掘調査成果の概要、史跡指定に至る経過、史跡の本質的価値、公園整備の内容、現状と課題、今後の保存、管理、整備の方針など多岐にわたります。

本文は以下のような構成となっています。

- 第1章 計画策定の沿革と目的
- 第2章 史跡の環境
- 第3章 史跡の概要
- 第4章 史跡の本質的価値
- 第5章 史跡の現状と課題
- 第6章 史跡の保存と活用に関する基本方針
- 第7章 史跡の保存と管理
- 第8章 史跡の活用
- 第9章 史跡の整備

第10章 史跡の運営

第11章 実施計画

第12章 経過観察

第2章では縄文海進時の市内の貝塚の変遷など、水子貝塚の地理的環境と歴史的環境について、第3章ではこれまでの水子貝塚の発掘調査成果、土地の公有化、史跡整備、管理運営など、国史跡に指定されてから現在に至る経過をまとめています。第4章では縄文時代前期の貝塚を伴う集落として全国最大級であることなど、史跡としての価値がどこにあるのかを述べています。第5章では史跡整備から約30年が経過した現状と課題について整理し、それを受け第6章で保存、管理、活用、整備、運営についての5項目の基本方針を定め、第7章から第10章で各基本方針についての具体的な取組について述べています。

保存活用計画は、水子貝塚資料館、市内図書館、市ホームページで閲覧することができます。





## 展示室フ千百科 Vol. 8 北通遺跡 8号方形周溝墓の大型壺

鉄剣が出土した北通遺跡 8号方形周溝墓の北西隅の周溝内から出土した弥生時代の大型の壺です。器高 60cm、口径 26cm、胴径 50cm を測り、市内の遺跡から出土した弥生土器としては最大級です。底は抜かれており、このことから方形周溝墓に供えられていた土器ということがわかります。柳瀬川流域では、供える壺に大中小の大きさの区別があったようで、大型の壺は規模の大きい方形周溝墓から見つかる傾向があります。北通遺跡の 1号方形周溝墓からも器高 60cm を超える大型の壺が出土しています。

この壺は、鉄剣とともに富士見市指定有形文化財となっていますが、発掘されてから 40 年近くが経過し、接合部分に隙間や歪みが出てきました。このままでは壺自体の重みで破損してしまう危険性があることから、令和 4 年度に文化財修理の専門業者に修復を依頼しました。接合部分や歪みを直し、補修した部分は着色し、以前とは見違えるような姿になりました。

7 月から資料館展示室で公開予定です。



## 水子貝塚公園でツリークライミング®体験！

4 月 23 日（日）に水子貝塚公園で、ツリークライミング体験を初めて開催しました。公園の活用と自然に親しみ自然を大切にすることを育むことを目的に、ツリークライミングチーム・バンジバルの全面協力により実施しました。小学生 13 人、大人 2 人が参加しました。

クライミングに使用する樹木は、公園の中心に植えられたケヤキです。平成 6（1994）年の開園当初は、太さ 15cm、高さ 6m ほどだったのが、現在は太さ 60cm、高さ 20m にまで大きく成長しています。枯れ枝の除去やクライミング用のロープを吊るす枝の選定など、事前に入念な安

全確認をして当日を迎えました。まずは全員で登る木にあいさつ。木になったつもりで体を動かした後、クライミングの方法と注意点の説明を受け、いよいよクライミング開始。最初はロープに吊られた体を思うように動かせずとまどっていましたが、コツをつかむとスイスイと登っていきえるようになりました。参加者全員が地上 6m の樹上世界を楽しみました。



## 縄文の森コンサート開催！

5 月 28 日（日）に水子貝塚公園の展示館で 5 年ぶりとなる縄文の森コンサート「草原の唄—馬頭琴の響き—」を開催しました。今回演奏していただいたのは馬頭琴奏者のチンゲルトさんで、93 人の方が鑑賞しました。馬頭琴はモンゴルを代表する弦楽器で、モンゴル語で「馬の楽器」（モリン・ホール）という意味です。

今回は全 11 曲+アンコール 1 曲を演奏していただきました。特に日本では絵本で有名な「スーホの白い馬（スヒン・サーハル）」は今回の曲目のなかでも関心を集めていました。後半には日本の童謡「故郷」と「荒城の月」を馬頭琴の演奏に合わせて会場の皆さんで合唱する場面も見られま

した。馬頭琴という日常的にあまりなじみのない楽器だったこともあり、皆さんとても興味深く演奏を聴いていらっしゃいました。またモンゴルレストラン「シリシゴル」の協力により、モンゴルの民俗衣装を会場に展示しました。演奏を聴いた方は「草原を感じた」「そこに馬がいた」「モンゴルに行ってみたくなった」「小学生のとき読んだスーホの白い馬の楽器を聴いて感動した」など、モンゴルへの想いを馳せていました。

